

「ほんまぶじつした。」

「うん、『今は急いでるわけ帰りがけに取るわ。』ってうたんやう。」

「へえ。」

「ごえんさんに手紙わたしたら、『顔色が悪いが、どうしたんじゃ。』ってきかれたと。わけしゃべったらな、ごえんさんが、『このせんさま一ぶく食べていきなはれ。』って出してくれた。ごせんさまよばれてもどつて来たら、やっぱり大入道は待ってた。ほやけど『今夜はすもう取らんぞ。お前には仏さんがぎょうさん付いてるぞな。』ってゆつたよ。」

そつらい べったり うしのくそ

おわりに

平成十一年春に、ものづくり、まちづくり、くらしづくりの三つの部会を持つうるしの里づくり協議会が発足しました。

くらしづくり部会の中の歴史・口碑グループは、十三年から地区の伝承を集めて、記録する作業に取りかかりました。

まず「河和田村誌」（昭和十二年）の口碑伝説を手がかりに、地区の方々にお話を伺ったり、現地を見に行きました。

「回想・河和田の里」（昭和五十四年）、「片山町誌」（昭和五十三年）、「上河内町抄史」（池田清治）や「河和田地区老人クラブ連合会二十年史」（昭和五十六年）および「鯖江今昔」（昭和五十六年）や「語りぐさ鯖江」（平成七年）、また「南越」「若越」（昭和三十年〜）、「ふるさと」「ふるさと鯖江（昭和五十三年〜）」などの機関誌に掲載された話や古記録から、かなりのものを集めることができました。

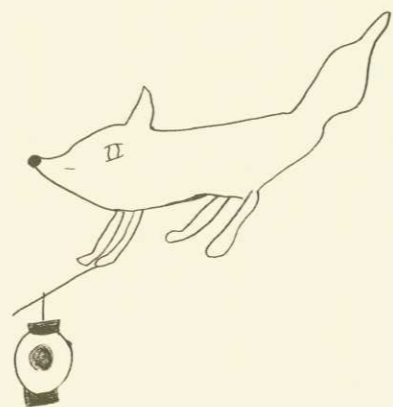
これらの伝承は、長短さまざまです。語り継がれていくうちに、自由に羽をのばして、別の話とむすびついたりしています。池から出現した黒仏さまのように、まさかと思われる話の中には、ありのままには語れなかった史実が隠されていたりします。また大長兵衛の話のように、薪をとりに行った山が殿上山と向かい山と、擬宝珠の石をのせた場所が江州と奥州と二つの説があるのです。後者のほうが正しいような気もするのですが、すでに活字になって人口に膾炙している前者をとりました。良く似た話でどちらをとるか決めかねたときは、歴史をしらべて、事実に近いほうをとりました。



臼すり岩と大ダヌキ



二つ頭の白い蛇



うるしの里づくり協議会

くらしづくり部会

歴史・口碑グループ

朝倉 玲子
内田 徹
大嶋 俊子
木村 隆
杉本 哲栄
関 泰二
多田 文子
土田 厚
平井きみえ
宮川 正治

(五十音順)

りました。
 そうして平成十五年より「河和田の昔ばなし」上・中・下巻を編集して、一年に一冊ずつ地区内の各家庭に配りました。
 その後、再刊の要望があり、この合本となった次第です。カットは小学生にお願いしました。会員が手分けして書きましたので、文体は一致しておりませんが、ご容赦ください。
 最後になりましたが、お訪ねしました時、快くお教えくださいました地区内外の皆さま、カットをかいてくださった小学生の皆さんに、心よりお礼申しあげます。

河和田の昔ばなし

発行 平成18年11月
発行者 うるしの里づくり協議会
編集 歴史・口碑グループ
連絡先 福井県鯖江市河和田町19-6-1
河和田公民館（コミュニティセンター内）
電話 0778-65-0001 FAX 0778-65-2894
E-mail SC-CC-Kawada@city.sabae.fukui.jp
印刷 合資会社 藤田印刷所 鯖江市有定町1-1-29